

令和8年度4月入学

大学院人間文化総合科学研究科（博士前期課程）入学試験問題

【一 般 選 抜】

言語文化学専攻
日本アジア言語文化学コース

〔専門科目〕

試験日：令和8年1月31日（土）

注 意

1. この冊子には、次のとおり、2分野、合計5題の問題が綴じられている。
(総ページ数 — 8ページ)

A群（AⅠ～AⅣ）

B

試験開始に際しては、まず、上記のとおり全問題があることを確認し、脱落がある場合は、挙手により監督官に申し出ること。

2. 各受験者は、A群のうちからいずれか1題を選び、Bの問題と合わせて解答すること。
3. 解答に際しては、A・Bそれぞれ指定された解答用紙を用いること。
(裏面も使用してよい。)

なお、使用する解答用紙のすべてに受験番号及び氏名を記入すること。

4. 試験終了後、この冊子は持ち帰ること。

A-1 つぎに掲げるのは、『萬葉集』卷十秋雜歌「七夕」に収められている二〇七三番歌の『校本萬葉集』の記述箇所である。
これを読んで、後の問に答えよ。

問題文は著作権の関係で掲載しておりません。

問一 結句について、西本願寺本(略号西)の漢字本文と訓を復元せよ。

問二 結句「念之」の部分について、諸本の訓を整理し、どの訓がふさわしいと考えられるか、理由を挙げて説明せよ。

問三 二〇七三番歌は七夕伝説における、誰の、どのような時点の歌として詠まれていると考えられるか、左に挙げた①②③の七夕歌と比較しつつ詳しく述べよ。

①ま日長く 恋ふる心ゆ 秋風に 妹が音聞こゆ 紐解き行かな(卷十・二〇一六)

②秋されば 川霧立てる 天の川 川に向き居て 恋ふる夜そ多き(卷十・二〇三〇)

③天の川 川門に立ちて 我が恋ひし 君来ますなり 紐解き待たむへに云ふ「天の川 川に向き立ち」

(卷十・二〇四八)

問四 中段の『赤人集』について知るところを述べよ。

A II つぎの文章は、『とりかへばや』の一節である。女主人公である中納言は、妻である四の君の裏切りに世を憂いて、吉野の地に隠棲する宮を訪ねた。宮は二人の娘とともに暮らしていて、彼の悩みは姉妹の行く末であった。中納言は宮と語らった後、この姉君と出会い、一夜を共に過ごした。これを読んで、後の問に答えよ。

問題文は著作権の関係で掲載しておりません。

(注) ○殿——中納言の父。

○上——中納言の母。

○右の大臣——四の君の父親。

○みづからの御心——四の君ご自身のお心。

問一 文中の影印部分について翻字せよ。漢字仮名の別や濁点の有無等はもとのままとすること。

問二 傍線部①の和歌を解釈せよ。

問三 傍線部②について、わかりやすく解釈せよ。

問四 傍線部③について、指示語の内容を明らかにしつつ現代語訳せよ。

問五 傍線部④について、どういうことか詳しく説明せよ。

問六 傍線部⑤について、「これ」の内容を具体的に明らかにした上で解釈せよ。

問七 『とりかへばや』について知るところを詳しく述べよ。

A III つぎは活版非売本『我楽多文庫』第九集（明治十九年十一月）から第十三号（明治二十年七月）にかけて掲載された山田美妙「嘲戒小説
天狗」の全文（未完）である。これを読み、後の問に答えよ。なお、印刷不鮮明箇所は原紙の状態に拠るものである。

問題文は著作権の関係で掲載しておりません。

問題文は著作権の関係で掲載しておりません。

問一 傍線部A～Jの読みを、すべてひらがなで記せ。

問二 線で囲った①箇所について、掛詞をすべて抜き出し、掛けられていることばを説明せよ。

問三 傍線部②「随分儉の字の御客だとか」とはどういうことか、説明せよ。

問四 傍線部③「己が天狗」とはなにか、説明せよ。

問五 傍線部④「今己が部屋の前を人が通るを見掛けて前の如く大言を吐いたが」について、誰が、どこで、どのような「大言を吐いた」のか、説明せよ。

問六 傍線部⑤「どうもさうだと思ツたが」について、誰の、どのようなようすを指して、誰が「さうだと思ツた」のか、くわしく説明せよ。

問七 傍線部⑥「宿の主人ハどういふ心か」とあるが、彼の「心」の内について説明せよ。

問八 傍線部⑦「虎と鴉の譬喩」について、その「譬喩」とはどのようなもので、なにを言おうとした「譬喩」だったのか、説明せよ。

問九 二重傍線部「八大傳をご覧じろ」とあるが、本小説発表時期における『八大伝』受容について知るところを述べよ。

A IV つぎの㊦・㊧の間に、すべて答えよ。

㊦ つぎの文を読み、後の問に答えよ。

問題文は著作権の関係で掲載しておりません。

『本事詩』による

(注) ○寧王曼——李憲，玄宗李隆基長兄。
一婦人而事二夫，縱弗能死，其又奚言？」(《左傳》莊公十四年)

○不共楚王言——春秋時，楚文王滅息國，擄息侯夫人歸，生二子，但息夫人卻從不與楚王說話，楚王問，她說：「吾
(注は、董希平等評注《本事詩》より抜粋)

問一 傍線部1を現代日本語に訳せ。

問二 傍線部2を書き下せ。

問三 傍線部3の詩について、

(a) 平仄を示せ。平は○、仄は●、韻字は◎を用いること。

(b) この詩を解釈せよ。

問四 傍線部4について、寧王がこのようなにしたのはなぜか、説明せよ。

(沈家煊《不对称和标记论》より)

㊦ つぎの文を読み、後の問に答えよ。

問題文は著作権の関係で掲載しておりません。

- 問1 下線部 a について、“部分正确”とはどのようなことを言っているのか、具体的に、日本語で説明せよ。
- 問2 下線部 b を日本語に訳せ。
- 問3 下線部 c について、“大于或等于一”とはどのようなことか、それぞれに当てはまる例を中国語で挙げ、具体的に、日本語で説明せよ。
- 問4 下線部 d を日本語に訳せ。

B

つぎの事項のうち、いずれか任意の五つを選んで説明せよ。なお、それぞれの解答のはじめに、何番の事項についての解答であるかをかならず明記すること。

- ① 『出雲国風土記』
- ② 『更級日記』
- ③ 『新勅撰和歌集』
- ④ 『野ざらし紀行』
- ⑤ 小新聞
- ⑥ 『赤い鳥』(雑誌)
- ⑦ 第三の新人
- ⑧ パラテクスト
- ⑨ 母音と子音
- ⑩ 係り結び
- ⑪ 待遇表現
- ⑫ 漢語と外来語
- ⑬ 『爾雅』
- ⑭ 『漢書』藝文志
- ⑮ 謝靈運
- ⑯ 李清照
- ⑰ 童心説
- ⑱ 曹禺

令和8年度4月入学

大学院人間文化総合科学研究科（博士前期課程）入学試験問題

【外国人留学生特別選抜】

言語文化学専攻
日本アジア言語文化学コース

〔専門科目〕

試験日：令和8年1月31日（土）

注 意

1. この冊子には、次のとおり、3分野、合計6題の問題が綴じられている。
(総ページ数 — 8ページ)

A群 (A I ~ A IV)

B

C

試験開始に際しては、まず、上記のとおり全問題があることを確認し、脱落がある場合は、挙手により監督官に申し出ること。

2. 各受験者は、A群のうちからいずれか1題を選び、BおよびCの問題と合わせて解答すること。
3. 解答に際しては、A・B・Cそれぞれ指定された解答用紙を用いること。
(裏面も使用してよい。)
なお、使用する解答用紙のすべてに受験番号及び氏名を記入すること。
4. 試験終了後、この冊子は持ち帰ること。

A | つぎに掲げるのは、『萬葉集』卷十秋雜歌「七夕」に収められている二〇七三番歌の『校本萬葉集』の記述箇所である。
これを読んで、後の問に答えよ。

問題文は著作権の関係で掲載しておりません。

問一 結句について、西本願寺本（略号西）の漢字本文と訓を復元せよ。

問二 結句「念之」の部分について、諸本の訓を整理し、どの訓がふさわしいと考えられるか、理由を挙げて説明せよ。

問三 二〇七三番歌は七夕伝説における、誰の、どのような時点の歌として詠まれていると考えられるか、左に挙げた①～③の七夕歌と比較しつつ詳しく述べよ。

①ま日長く 恋ふる心ゆ 秋風に 妹が音聞こゆ 紐解き行かな（卷十・二〇一六）

②秋されば 川霧立てる 天の川 川に向き居て 恋ふる夜そ多き（卷十・二〇三〇）

③天の川 川門に立ちて 我が恋ひし 君来ますなり 紐解き待たむへに云ふ「天の川 川に向き立ち」

（卷十・二〇四八）

問四 中段の『赤人集』について知るところを述べよ。

A II

つぎの文章は、『とりかへばや』の一節である。女主人公である中納言は、妻である四の君の裏切りに世を憂いて、吉野の地に隠棲する宮を訪ねた。宮は二人の娘とともに暮らしていて、彼の悩みは姉妹の行く末であった。中納言は宮と語らった後、この姉君と出会い、一夜を共に過ごした。これを読んで、後の問に答えよ。

問題文は著作権の関係で掲載しておりません。

(注) ○殿——中納言の父。

○上——中納言の母。

○右の大臣——四の君の父親。

○みづからの御心——四の君ご自身のお心。

問一 文中の影印部分について翻字せよ。漢字仮名の別や濁点の有無等はもとのままとすること。

問二 傍線部①の和歌を解釈せよ。

問三 傍線部②について、わかりやすく解釈せよ。

問四 傍線部③について、指示語の内容を明らかにしつつ現代語訳せよ。

問五 傍線部④について、どういうことか詳しく説明せよ。

問六 傍線部⑤について、「これ」の内容を具体的に明らかにした上で解釈せよ。

問七 『とりかへばや』について知るところを詳しく述べよ。

A III つぎは活版非売本『我楽多文庫』第九集（明治十九年十一月）から第十三号（明治二十年七月）にかけて掲載された山田美妙「嘲戒小説
天狗」の全文（未完）である。これを読み、後の問に答えよ。なお、印刷不鮮明箇所は原紙の状態に拠るものである。

問題文は著作権の関係で掲載しておりません。

問題文は著作権の関係で掲載しておりません。

問一 傍線部A～Jの読みを、すべてひらがなで記せ。

問二 線で囲った①箇所について、掛詞をすべて抜き出し、掛けられていることばを説明せよ。

問三 傍線部②「随分儉の字の御客だとか」とはどのようなことか、説明せよ。

問四 傍線部③「己が天狗」とはなにか、説明せよ。

問五 傍線部④「今己が部屋の前を人が通るを見掛けて前の如く大言を吐いたが」について、誰が、どこで、どのような「大言を吐いた」のか、説明せよ。

問六 傍線部⑤「どうもさうだと思ツたが」について、誰の、どのようなようすを指して、誰が「さうだと思ツた」のか、くわしく説明せよ。

問七 傍線部⑥「宿の主人ハどういふ心か」とあるが、彼の「心」の内について説明せよ。

問八 傍線部⑦「虎と鴉の譬喩」について、その「譬喩」とはどのようなもので、なにを言おうとした「譬喩」だったのか、説明せよ。

問九 二重傍線部「八犬傳をご覧じろ」とあるが、本小説発表時期における『八犬伝』受容について知るところを述べよ。

A IV つぎの曰・曰の間に、すべて答えよ。

曰 つぎの文を読み、後の問に答えよ。

問題文は著作権の関係で掲載しておりません。

〔本事詩〕による

(注) ○寧王曼——李憲，玄宗李隆基長兄。 ○不共楚王言——春秋時，楚文王滅息國，虜息侯夫人歸，生二子，但息夫人卻從不與楚王說話，楚王問，她說：「吾一婦人而事二夫，縱弗能死，其又奚言？」(《左傳》莊公十四年)

(注は、董希平等評注《本事詩》より抜粋)

問一 傍線部1を現代日本語に訳せ。

問二 傍線部2を書き下せ。

問三 傍線部3の詩について、

- (a) 平仄を示せ。平は○、仄は●、韻字は◎を用いること。
- (b) この詩を解釈せよ。

問四 傍線部4について、寧王がこのようにしたのはなぜか、説明せよ。

目 つぎの文を読み、後の問に答えよ。

問題文は著作権の関係で掲載しておりません。

(沈家煊《不对称和标记论》より)

- 問1 下線部 a について、“部分正确”とはどのようなことを言っているのか、具体的に、日本語で説明せよ。
- 問2 下線部 b を日本語に訳せ。
- 問3 下線部 c について、“大于或等于一”とはどのようなことか、それぞれに当てはまる例を中国語で挙げ、具体的に、日本語で説明せよ。
- 問4 下線部 d を日本語に訳せ。

B つぎの事項のうち、いずれか任意の三つを選んで説明せよ。なお、それぞれの解答のはじめに、何番の事項についての解答であるかをかならず明記すること。

- ① 『出雲国風土記』
- ② 『更級日記』
- ③ 『新勅撰和歌集』
- ④ 『野ざらし紀行』
- ⑤ 小新聞
- ⑥ 『赤い鳥』（雑誌）
- ⑦ 第三の新人
- ⑧ パラテクスト
- ⑨ 母音と子音
- ⑩ 係り結び
- ⑪ 待遇表現
- ⑫ 漢語と外来語
- ⑬ 『爾雅』
- ⑭ 『漢書』藝文志
- ⑮ 謝靈運
- ⑯ 李清照
- ⑰ 童心説
- ⑱ 曹禺

C あなたの研究しようとしているテーマは何か、またそれに対してどのようなアプローチを試みるつもりかを、具体的に論述せよ。